大映スコープ
総天然色

濡れ髪三度笠

人物も物語も型破り
「濡れ髪三度笠」の役と人
ソフトに描かれるドライ型とウエット型

新作「お嬢吉三」で新人らしい才気と若々しさの片鱗を味わした大映時代劇監督のホープ田中徳三が、再び現代感覚に溢れた新時代劇を引っ提げて、このほどより「濡れ髪三度笠」（カラー・ワイド）の撮影を開始した。内容は、題名の示す通り、一応股旅物の型式にはなっているが、そのストーリも、登場人物も型破りに痛快で明るく、いまここにその中心人物となる四人の役と人とを借りて説明すると——

特報

濡れ髪の半次郎　（市川雷蔵）

東海道を東へ行く孤独なしの旅姿、顔はいいし、口は立つし、無ッ市は強い所、美男人情には全然モロクで、無邪気のないそ無頓着だやくざが、貧乏い稼業の暗殺団に狙われている長の行事若若を無事に江戸まで送る事を頼まれたのがそもそもの始まり、吉田時化郎と森の右松を足して二に割ったようなクエットさで、敢然と乗り出を行く物語の後段ッ張り、濡れ髪はこの役で"やくざのすべて"といったものを見せたい意気込みで、最近恋の命を謳めた繁盛の名教授に染んだ演技力に期待される。

長之助　（木暮実千代）

十一代将軍の実子とはいえ、その第三十八番目ともなれば、少々扱いがおッチッ、成人するまでは岡崎藩の冷飯食いで、ヒョンなことから五万石の大名になる幸運が転がり込み、父子対面のために江戸へ発ったが、其を妨害の暗殺団に待ち伏せ、やがて変装して半次郎の弟分として殺陣道中の旅路となる。無は弱いが性格はいきかドライタッチ、半次郎が必死になって、無愛か長之助の生命を護ッても、本人は、ケロリとしてそれほど身に応みない感じ。半次郎を一手石の家老に取立ててやるといッて、いきなり接吻をひッぱたかれるような若者で、新スター木暮実千代が、田舎とまんでおきのハチキレる大役に体当りをする。

お　蔦　（淡路恵子）

信れたか無後、たとえ火の中水の中でもと、川の清廉を、新しくして明るくしたようなこの

お　き　き　（中村玉緒）

年頃のわずか十二歳の全に因って、島田宿の女郎屋へ身売りの蔦を結ける百姓娘が、ふとした事から長之助を将軍の若君とも知らずに恋してしまう。島田へ着くまでのわずかの時日が、彼女の一生の中での一番生甲斐のある数日。彼女の情れな純情さにはさすがの赤鬼も絆かされてしまう。しかも長之助の情けで、百姓の身となった時は、彼は今や手の届かない将軍の若君と判ったときだった。だが、運命の糸は更に意外な方向へ彼女を導いて行く。明るい笑いの中に、淡やかな涙をそそる中村玉緒ならではの純情娘である。

濡れ髪の半次郎の相手役は、いうまでもなく半次郎だが一文にもならぬことに取の色かえで命を賭けているこの半次郎の義兄弟の右松役に某氏を加盟に某氏ながら、彼の女自身も無類の善人で、弱虫好きでいつしか彼と共同戦線を張るに至り、殺し屋を相手に大奮闘、旅路の子の泣れんばかりの色気と好演で再付けされると、これまでの時代劇になかったフレッシュな魅力が発揮されるだろう。

我の殺人女のお目当ては、いうまでもなく半次郎だが一文にもならぬことに取の色かえで命を賭けているこの半次郎の義兄弟の右松役に某氏ながら、彼の女自身も無類の善人で、弱虫好きでいつしか彼と共同戦線を張るに至り、殺し屋を相手に大奮闘、旅路の子の泣れんばかりの色気と好演で再付けされると、これまでの時代劇になかったフレッシュな魅力が発揮されるだろう。

こうして五人の主要人物に、ソロバンと剣とを天びんにかけた殺し屋の一団（千葉敏郎が首領）、大阪の弥次郎（ダイマル・ラケット）、船頭のC・M歌うおとし（柳トシエ）、岩屋の古い家のムード・コーラス（マヒナ・スターズ）などが絡んで、話は全然愉快になるといえ、いうまでもなく文字通りの殺陣新時代劇である。

大映京都撮影所宣伝課
京都市右京区太秦蜂ノ岡
2860号